

障害者（児）防災アンケート

結果と対策

平成24年1月

匝 瑛 市

匝瑛市障害者自立支援協議会

障害者（児）防災アンケートの主旨

アンケートの概要

- I 避難に関すること
- II 情報伝達に関すること
- III 避難所及びその環境に関すること
- IV 日頃の備えに関すること

障害者（児）防災アンケート <配布用>

障害者(児)防災アンケートの主旨

平成23年3月11日の東日本大震災(以下「震災」)を受け、当市でも津波被害や避難所の開設等、これまで経験したことのない対応を求められました。

その中で障害者(児)の方々がどのようにこの状況を捉え対応したのか、何に困り何に不安を感じたか等、災害時の実態とニーズの把握をするためアンケートを実施しました。

このアンケートを基に、今後の障害者(児)の防災対策のあり方を検討し、匝瑳市地域防災計画へ役立てたいと思います。

アンケートの概要

<障害別対象者数と回答者数について>

	身体障害者	知的障害者	精神障害者	計
対象者数	1243	139	111	1493
有効回答者数	576	62	38	676
有効回答率(%)	46.3	44.6	34.2	45.3

<アンケートについて>

1. 方法 郵送によりアンケート用紙を送付。返信用封筒にて回収。
2. 時期 平成23年6月24日～平成23年7月22日
3. 内容 別紙1「障害者(児)防災アンケート」

<属性について(回答結果より)>

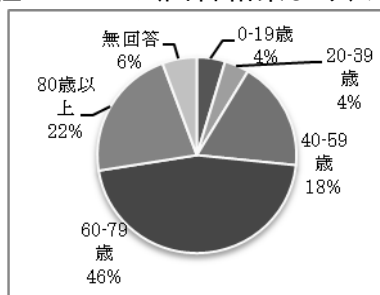


図1 年齢

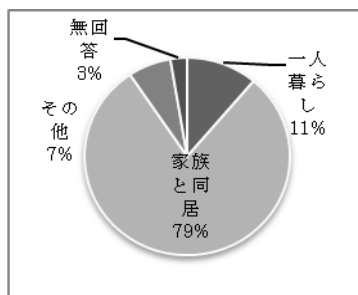


図2 世帯構成

○年齢は「60～79 歳」の年代が 46%と最も高い。

○世帯は「家族と同居」が 80%と高く、「1 人暮らし」は 11%みられた。

<結果と対策のまとめ方について>

アンケートの各質問項目について、質問内容や回答内容で類似していると考えられるものを大きく 4 つにカテゴリ分けし、結果と対策について検討した。

<アンケート結果>

- 震災時、75%が「誰かと一緒」におり、24%の者は「1人」で過ごしていた。
- 避難指示が出された場合、「すぐに避難できる」と答えた者は35%で、55%の者が「すぐに避難できない」との結果であった。
すぐに避難できないと回答した者のうち、「1人では困難だから」という者が66%みられた。
- 「防災訓練に参加したことがない」と答えた者は67%であった。
- 震災時、避難指示地域におり「指示通りに避難した」者は46%、「避難しなかった」者が53%であった。
避難しなかった理由としては「様子を見ていた」が61%と最も高かった。

<対策について>

1. 要援護者の把握

発災時の安否確認や避難支援の必要性等、平常時より個別に把握することが大切であり、コミュニティー単位（区長会など）^{*1}での自主防災組織を中心に状況把握を進めていくことが必要である。

2. 避難・支援計画

避難方法や避難場所等、個別避難計画作成に努め、家族や支援者等が共有できるような連携・協力体制をつくる必要がある。

3. 支援体制の構築

自主防災組織と行政、関係機関が連携を図り、地区コミュニティー等に加入していない者の対応についても検討していく必要がある。

4. 防災訓練

障害者等の要援護者を対象とした防災訓練の実施も今後検討が必要である。

5. 避難手段

震災時の要援護者の避難手段については、可能な範囲で自動車を勧める。併せていくつかの避難ルート等も把握しておく必要がある。

II 情報伝達に関すること

<アンケート結果>

- 震災時、「緊急地震速報に気づかなかった」と答えた者が 35%みられた。
- 震災時、緊急地震速報に気づいた方の手段は 62%が「防災行政無線」であった。
- 情報発信のあり方として、最も要望が高かった内容は「市から携帯電話への発信(メール含む)」が 16%であった。他には「障害者専用の窓口設置」や「市職員の巡回」などがあった。
- 「防災行政無線未設置者」が 14%みられ、設置している者の中で「電池交換をしていない」者は 36%であった。

<対策について>

1. 防災行政無線

震災時の状況からも、情報手段としては防災行政無線が最も有効であったと考えられ、防災行政無線の戸別受信機設置の普及、電池交換の定期的なお知らせが大切である。聴覚障害者については、文字表示機の防災行政無線を紹介していく。

2. 防災メール

匝瑳市横芝光町消防組合が H23 年 9 月 1 日より開始した『防災メール』の登録制度^{*2}は普及がまだ十分でなく、積極的な利用勧奨をしていくことが必要である。

また、医療や福祉情報等に特化した障害者(児)専用の防災メールの配信(視覚・聴覚障害者の為にも文字と音声に対応できるもの)についても今後検討していく必要がある。

3. 障害者(児)専用窓口の設置

障害者(児)専用窓口の設置に向け、以下の内容について検討・決定しておく。また各種情報については平時より整理統括し、関係機関で情報共有を行う。

- ①市民ふれあいセンターや野栄総合支所等の一室に専用の相談窓口を設ける。
- ②担当スタッフ
- ③基本情報

(例：福祉用具や医療機材の整備状況、医療機関や薬局の開設状況、要援護者の避難の状況・居場所、障害種別や福祉避難所等の避難所情報等)

Ⅲ 避難所及びその環境に関すること

<アンケート結果>

- 避難所環境について大切だと思うこと（複数回答）との問いで最も多かったのは「医療面での相談スタッフがいる」で42%、次いで「専門のサポーターがいる」26.8%であった。
- 避難所の設備面では「バリアフリー」が26%、「避難所での優先室」が15%と多かった。「福祉避難所^{※3}の設置」についても24%と多数を占めていた。

<対策について>

1. 避難所における人材

避難所には医療・福祉の両面で相談対応ができる保健師、看護師、社会福祉士等の専門スタッフを配置する。

2. 避難所における環境

避難所ではバリアフリーや優先室の確保などに努める。

3. 福祉避難所

障害者の方だけの福祉避難所の必要性も認められた。福祉施設や特別支援学校等と障害種別の福祉避難所協定を結ぶことも必要である。

IV 日頃の備えに関すること

<アンケート結果>

○震災時、一番必要・欲しいと感じたことについては、「食糧・水」21%、「電気・電池」19%、次いで「ラジオ」であった。

「トイレや福祉用具、医療機材、オムツ」等は合わせて8%であった。

○防災グッズ等の日常の備えについては、「懐中電気」が82%と最も高く、次いで「ラジオ」67%、「水」53%、「食糧」33%であった。

○避難時に日常飲んでいる薬や医療物品などがすぐに持ち出せるかとの問いには、「持ち出せる」と答えた者が62%、「持ち出せない」が17%みられた。

<対策について>

1. 日頃の備え

食糧や水については必要性が高い項目だが、障害があることで買物・配布場所に行けないということがある為、個別訪問により提供する体制整備も必要である。

医療機材の常時使用者については、長時間停電や避難所での生活も想定した対応策、個別避難計画の立案も必要である。また情報確保の為に電池等の備えも必要である。

トイレや福祉用具、医療機材、オムツ等については、緊急時を想定した物品の確保に努める必要がある。またその物品の保管場所、数などの情報を関係機関と共有する。

薬や医療物品に関しては、持ち出しがすぐにできるような準備と、個別避難計画等を活用した、関係機関との連携についても検討が必要である。

2. 防災知識の普及

防災グッズ等については、まずは自らが物品を揃えることに加え、すぐに持ち出すことが可能な状態にしておくこと。更に日頃の備えを怠らないような広報活動を行う。

※1 「平和地区社会福祉協議会の取組について」

平和地区社会福祉協議会では、平成 20 年より 3 年間をかけて地域福祉フォーラムに取り組み『平和地区災害時要援護者マップ制作』をテーマとして活動を推進しました。“高齢者や障害者を大規模災害から守る”、“マップ作りを通じ住民の方々に災害に対する意識を高めてもらう”という目的のもと民生委員や各区長の方々、学校、個人の方々の協力を得てマップを完成させました。平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災時にはこのマップを基に安否確認を行い、身体的・物的被害の状況を把握したり、訪問を受けた方からは「精神的に落ち着いた」「安心して生活ができる」といった声が聞かれました。

現在この地域福祉フォーラムは他地区においても取り組まれており、活動の拡がりをみせています。

【平成 23 年 12 月現在マップの完成状況】

完成 …平和、飯高、中央（籠部田・下富谷・田町）

取組中…共興、須賀、中央（下出羽）

※2 「防災メールの登録方法について」

①登録用アドレス (ehtq9574@machicomい.jp) に空メールを送信

②返信メールから登録サイトへアクセス

③登録画面へいき確認

※3 「福祉避難所について」

介護の必要な高齢者や障害者(児)、妊産婦、乳幼児、病人のうち、特別の配慮を必要とする人たちを一時受け入れてケアする施設。小学校等、通常の避難所での生活が困難な人たちのための避難所である。原則的に健常者は避難することができない。専門スタッフを配置した介護施設や学校を自治体が指定することになっている。施設はバリアフリー化されていて援護が必要な人の利用に適している施設でなければならない。

問い合わせ先

匝瑳市福祉課

電話 0479-73-0096

FAX 0479-72-1116